

地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

地域内フィーダー系統	
事業概要 西部線、塩瀬線、つくであしがる線	
25年度	
自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数、利用者満足度、収支率の目標値を設定。多くの路線が利用者数には大きな変動は見られない状況。満足度調査の結果では、運行回数の少なさや運行ダイヤへの不満のほか、乗継時の待ち時間が長いことに対する不満が多くなっている。 ・塩瀬線では平成25年4月1日から、接続する布里田峯線との乗り継ぎ運賃を設定。運賃負担を軽減して利用者の利便向上につなげたい。 ・利用促進や計画再編には「路線を守り育てる会」及び「地域部会」を活用し、地域の意見を取り入れて実施している。 	二次評価 <p>利用促進策や事業計画の見直しが連携計画に基づき実施されており、「路線を守り育てる会」や「地域部会」を活用した事業の推進が定着しつつあります。</p> <p>次年度以降においては、課題となっている近隣市町村との連携も含めたアクションプランが策定され、事業が実施されることを期待します。</p>

今後の対策
<p>平成20年2月に策定した新城市地域公共交通総合連携計画に基づき、6つの重点ポイントとして①運行形態・路線網の検討、②ニーズの把握と反映、③利用しやすい料金体系、④バス関連施設の整備、⑤地域・利用者の参画、⑥積極的な情報提供を掲げて事業を進めてきたところであるが、この連携計画の進捗状況を確認し、必要のある部分は計画の見直しを含め検討していきたい。</p> <p>この計画に基づき、第1期においてはSバス全線に係る必要な路線網の見直し、運賃の統一などを図ってきたところであるが、計画策定後5年を経過しており、計画の進捗状況を確認し、計画の変更などを含めた検討が必要である。</p> <p>計画には、新たな路線の変更・延長の検討、路線ごとにおける目標と評価の手法、満足度調査に係る内容とその位置付け、守り育てる会を起点とした住民・地域協働型の公共交通づくりの一層の進展と田口新城線の一層の利便性の向上について近隣市町村と連携を図りながら計画の見直しを行っていきたい。</p>